

「場所としての図書館」をどう考えてきたか。

01. 「場としての建築」：佐藤仁「活動と場として図書館を理解する」・・・42年昔、はじめに腑に落ちたこと
ひとつの建築観／都市観 ←→ 情報としての建築(磯崎新)／情報としての図書館(根本先生)
建築を構成する要素／壁・天井・床・・・と空間・・・そして人の営為を支えるために
※図書館(本、ひと、施設)もおなじにとらえてもよいだろうか。
02. 図書館雑誌2008.06「デザイン：場としての図書館」・・・あたらしい固い原理があるわけではなくて、
どういう情景を図書館員が想像しているか、創造したいか、ということに沿って。
03. 第100回図書館大会施設分科会でのテーマ・・・「図書館建築の設計作法」を問われて、
どのように資料世界と建築空間が、一体になじんで、しつらえられるか、
図書館員とどう向き合うか。(建築が先か、資料世界表現が先か。)
04. 大切な時間的要素、ブラウジング と シークェンス・・・彫刻ではなくて音楽や物語のように。
ブラウジングが豊かになる環境のしくみ、しつらえ。(ゲーテ)
環境のつながり、みちゆき、資料世界のおくゆき、
05. 図書館の場が持つべき4つの環境の特性・・・専門性、広場性、市民性、地域性、
出会いの場、千葉治さんの図書館ひろば論、C.アレキサンダー「MSCを造るパターンランゲージ」
専門性と成長性が軽んじられて、広場性/集客性/共感性が偏重して求められる時代。
06. 先週、南相馬市図書館で若い図書館員に頂いたご本。・・・共著「図書館コレクション談義」大学教育出版
高橋将人さんが言いたいのは、私のテーマ。ひとの居心地、本の居心地。
本の居心地？ 資料世界の構造化と表現。ひとをつなぐ、本をつなぐ。
07. 先週、開館6年の南相馬図書館の情景・・・棚の向こうに「考える図書館員」がみえる。
YAコーナーにあったメッセージ、司馬遼太郎のいう「ふるさとにくるまれるような」
リットバーグ夫人のいう「今・ここ・自分・社会とのつながり」
それぞれの場に図書館の空気／情景を感じて ・大急ぎのライドショー
08. これまでのこころみ・・・図書館の計画と設計とその後の学び。友人たちへの手紙。
神奈川県大磯町、福岡県苅田町、沖縄県名護市、佐賀県伊万里市、埼玉県小川町、
千葉県君津市、滋賀県愛知川町(愛荘町)、長崎県多良見町(諫早市)、原町(南相馬市)
09. たとえば苅田からの公開書庫域(準開架)のこころみ・・・開架と閉架の中間／場のグラジュエーション。
「まちむらの図書館に書庫はいらない」前川理論から進まない井勘定の倉庫規模書庫論。
15年前に根本先生にねだった新しい書庫論(図書館資料世界の構造化論)。

※.ご参考になれば・・・「寺田大塚小林計画同人」ホームページ(親の手を離れた子供の成長アルバムのように)

<http://www.geocities.jp/tokdojin/works/works.html>